

就労者数 500人突破

市が取り組む主要施策「障がい者千人雇用」。今年6月、障がいのある人の就労者数が500人を超えました。

市ではこれまでさまざまな政策を打ち出してきました。なかでも4月に開所した「総社市障がい者千人雇用センター」は始動してから約5か月、新たな雇用の場の開拓や、就労者の定着支援のため市内を積極的に回っています。障がい者と企業を結び、地域に密着した拠点として活動する障がい者千人雇用センターを紹介します。



千人雇用ワーカーの前田さんの質問に答える植田さん。前田さんを信頼し、体調のことなど仕事以外の相談もしている

仕事はとうとうか？
暑いけど体調は大丈夫ですか？

仕事は楽しいですよ。
体調も大丈夫です。



障がい者の自宅や企業の事業所を訪し、相談を受けている

就労のためにあらゆるサポート

障がい者がどんな仕事をしたかったのか、どんな仕事に適しているのかなど、さまざまな条件を調査、検討。一人ひとりに合った職場を探します。植田さんは、「外で働く方が健康にいいから」と、屋外での仕事を希望。暑いなかで黙々と草取りをする姿からは、働く意欲が感じられます。

また、雇用契約をする前には、実際に職場の見学や訓練・実習などをしてもらい、働くことに自信をつけ

るための支援をします。植田さんも事前の実習を体験。「これならできる」と正式に働き始めました。

ささいなことでも相談できる関係

障がい者が就労した後には、事業主から仕事をしている様子や周囲の人たちとの関係を定期的にヒアリング。グリーンファームの代表坪井恭男さんは、「就労後も相談にのってもらい助かります」と話します。障がい者からも、職場での悩みや仕事の内容などを聞き取り、アドバイスをします。

「相談してよかった。農業は自分に向いていると思う。暑いけどがんばります」。

野菜の栽培、収穫などの農作業を行う就労継続支援A型事業所グリーンファームで働く植田充男さん（日羽）はこう話します。植田さんは、障がい者千人雇用センターの支援を受け、今年5月から就労。千人雇用ワーカーの前田光彦さん

「仕事には慣れましたか」「この前、体調を崩していたみたいけど」と声をかける前田さんに「草取りは家でもやっていたから」「もう大丈夫です」と答える植田さん。前田さんは、何げない会話から植田さんの変化を聞き取ります。「障がい者の変化に早く気づき、対応していくことで、事業主と障がい者、両者がより良い関係を築き、就労の継続につながります」と。

障がい者と企業との架け橋に

このように、障がい者千

は、「働き始めても続かないケースも多い。だから就労した後のフォローが大事。ささいなことでも相談してほしい」と、真剣なまなざしで話します。センターは、障がい者の仕事探し、就職に結びつけることだけでなく、自分の力で仕事を継続できるようにアシストしていくことも重要な役割だと考えています。

人雇用センターは、障がい者の就労や生活のコーディネートとを、企業・事業者と障がい者の間に入り、きめ細やかに行っています。そして、障がい者や企業などが気軽に相談できる、総社という地域に密着した窓口となっています。

今後も職員一同それぞれがもっているノウハウを生かし、働きたいと思っている障がい者一人ひとりの心強い存在となり、障がい者がそれぞれの能力と適性に合った雇用の場に就き、自立した生活を送れるよう、サポートしていきます。



電話での相談に対応する、就職支援ナビゲーターの高橋さん。求人情報提供システムを使い検索。ハローワーク総社との連携もバッチリ。「センターの良さはチームワーク。多職種のメンバーが力を合わせ、多様な支援を行っています。気軽に相談してください」と話す



センターの活動は連携が重要。センター長の中井さん（写真右）とセンター長代理の大月さん（写真左）は情報交換を密に行う。「センターが効率的に動けるよう調整するのが私の役割」と中井さん。「岡山障害者就業・生活支援センターで培ったネットワークを総社で生かしたい」と大月さんは話す